

石狩市民図書館

図書館からのまちづくり

みんなで話す、図書館カフェ 報 告 書



平成 27 年 12 月

もくじ

1. 事業の目的	1
2. プログラム	2
3. 第1部 講演	3
4. 第2部 茶話会	11
(1) 図書館を利用する理由、利用しない理由を考えてみよう	11
(2) もっと身近な図書館に！図書館と市民のキヨリをちぢめるには？	13
(3) 図書館から感想とあいさつ（館長 東信也）	18
5. アンケート	24
6. 資料	29
(1) チラシ	29
(2) 石狩市民図書館について（情報提供資料）	30
(3) 図書館を利用する理由、利用しない理由を考えてみよう（詳細意見）	33
(4) アンケート用紙と自由記入の詳細	39

1. 事業の目的

石狩市民図書館（以下「図書館」という。）は、平成9年に策定した「石狩市図書館基本計画」に沿って建設され、今年で開館15周年を迎えました。平成22年度には、図書館の運営の長期的な指針「石狩市民図書館ビジョン」（以下「ビジョン」という。）を定めました。今年度はその後期5カ年の初年度にあたります。

この事業では、図書館に対する市民の意見を聞く機会を設け、市民が考える図書館への期待や課題を把握し、市民の皆さんのニーズに応えられる図書館にしていくための情報収集をすることを目的に開催します。いただいた意見は、以下の視点から活用していきます。

- ・ 今後実施予定の、図書館に関する住民調査の調査項目を検討するための情報を収集します。
- ・ 図書館の現在の課題に対する改善点についての意見を聞き、登録数や利用者数の増加につなげます。
- ・ 図書館に期待される時代のニーズをとらえ、今後の図書館のあり方について検討します。

2. プログラム

事業は、図書に関する興味関心を広げる目的で開催する講演会を第1部、参加者との意見交換を第2部とする二部構成で開催しました。開会に先立ち、図書館協議会の北條委員より、挨拶をいただきました。

<プログラム>

第1部 13:30～14:30 (60分) (参加者 45人)

基調講演：紀伊国屋書店の海外展開

講師：紀伊国屋書店 札幌本店店長 石堂 聡さん

第2部 14:40～16:30 (110分)

茶話会 (参加者 41人)

① 石狩市民図書館のご紹介 (7分)

② ワークショップの目的と進め方の説明 (3分)

③ 三人ワークショップ1 (15分)

「図書館を利用する理由・しない理由を考えてみよう」

④ - 情報提供 兼 休憩 - (5分)

⑤ 三人ワークショップ2

「図書館と市民のキヨリを縮めるには？」 (50分)

～意見交換と、提案シートのまとめ～

⑥ 休憩 (5分)

⑦ 全体で共有 (20分)

⑧ 図書館から感想 (5分)

⑨ 終了

<開会あいさつ> 北條図書館協議会委員より

みなさん、こんにちは。突然の雪で足元の悪い所のあるなかお集りいただきました本当にありがとうございます。さて、この石狩市民図書館も開館から15年が過ぎました。新規の方も含め、利用者を増やすにはどうしたら良いのか。まちに必要な図書館とはどんなものだろうか。広く気軽に話し合う事ができる場所を作りたいと思い、図書館協議会の私たちと図書館の司書が企画や運営方法について話し合いを重ねてきました。これまでも本を借りるだけでなく、イベントを見に来たり、勉強しにきたり、野菜を買いに来たり、待ち合わせをなど様々な利用のされ方があったと思いますが、利用者が来るのを待っているだけではなく、初めての方、ヘビーユーザーの方との距離の詰め方を考えていけたらと思っています。今日は高校生から80代まで幅広い年代の方が参加してくださっています。皆で石狩に必要な図書館のあり方を考える一日になれば良いなと思っています。本日はよろしくお願いします

3. 第1部 講演

出版不況といわれ、日本の出版業界は厳しい状況にありますが、米国、シンガポールなど、紀伊國屋書店の海外店舗は現地の需要を取り込み、成長を続けています。日本の書店がなぜ海外で成功できたのか、その経緯をご紹介します。

講演：紀伊國屋書店の海外展開

講師：紀伊國屋書店 札幌本店店長 石堂 聡さん



<講演内容>

ご紹介いただきました、紀伊國屋書店札幌本店の石堂と申します。本日はこのような大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございます。職業柄、お店の方に作家さんや研究者の方をお呼びしてお話いただく機会は多いのですが、自分が人前に出て話をするというのは経験がないもので、ゆき届かない点も多いかとは思いますが、頑張ってこの後予定されている茶話会の前座を努めさせていただきます。おつきあいのほど、どうぞよろしくおねがいいたします。

本日の図書館カフェですが、テーマが『石狩市民図書館に必要なものはなんだろうか』みんなで話し合おうということだと伺っております。公共施設として書籍を貸し出されている図書館さんと、企業として書籍を販売している私たち書店。担っている役割はそれぞれ違ってはいますが、利用者、お客様のニーズにあったサービスを提供して、繰り返し同じ場所に来ていただかないといけないという点では共通していると思っております。もちろん、私の所属している札幌本店をはじめとして、国内の店舗においても、いかに地域のお客様からの信頼を獲得するかというのは日々試行錯誤を繰り返しています。

例えば地域に拠点を置いている大学などの団体と一緒にイベントをしたり、郷土に関する書籍の品揃えを充実させたりするのはそういった取り組みの一貫です。ただ、そういうところは皆様も普段目にされているので、本日は少し視点を変えて、私個人の経験もふまえて、弊社の海外での仕事について紹介できたらなと思っております。

この中に弊社の海外の店舗をご覧になられたことがある方は、いらっしゃいますか？いらっしゃらないようでちょっと残念です。

あんまり知られていませんが、弊社は世界各国に全部で 26 店舗を持っています。日本の本だけを扱うわけではなく、英語の洋書、中国語の本、タイ語の本、マレーシア語の本、最近ですとアラビア語の本なども取り扱っています。日本と違って、海外は出版統計がしっかりと整理されていないので詳しい数字というのは出しづらいですが、例えばシンガポールにおいて一番有名な書店は、多分紀伊國屋書店です。出版物というのは国の思想や哲学を凝縮したものですから、当然言語の壁もあり、なかなか外国人には取扱いにくいものなのですが、そうした中で日本の本屋である紀伊國屋書店が現地でどうやってビジネスを展開していったのか、特に私の経験からアジアでの事例についてお話していきたいと思います。海外といういわゆる特殊環境下ですが、現地で定着するために弊社が行って来た施策が今後の図書館運営のなにかヒントになればなと思っております。

紀伊國屋書店の海外第一号店は 1969 年、アメリカのサンフランシスコのお店です。最初のお店の売り場が 200 坪なので、この会場の 4 倍くらいの大きさで最初はオープンしております。最初は、そこに住んでいる日本人の方に最新の書籍をお届けし、現地のアメリカのお客様に日本の文化を紹介することを目的として出店しました。アメリカ出店を決断したのは 2 代目社長に当たる松原ですが、当初は経営的に難しいと何度もお断りしたのですが、繰り返しオファーをいただきました。松原は戦後の処理などを一手に手がけてきた経験があり、これからの平和な世界のためには相互の理解が不可欠ということを考え、最終的に出店を決断したと伝えられています。とはいいいましても、当時米国には既に 10 万人日本人がいたのでその日本人の書籍の需要に加えて、それまで日本で培った色々な販売のノウハウを生かして、北米で商売をして参りました。

サンフランシスコのあと、ロサンジェルス、ニューヨークなど、現在全部で 9 店舗あります。バブルの時期にはロックフェラーセンターという超一等地にもお店がありましたが、今は少し離れた所に移転しました。

一方で、アジアの展開は 80 年代です。1983 年のシンガポール店が最初の店舗で、その後、1987 年に台湾、1990 年にマレーシアのクアラルンプール、1992 年にタイのバンコク、オーストラリアと順次出店していきました。紀伊國屋書店のアジア地区への出店拡大は、背景にアジアにおける日本人の人口が増えていった時代と重なっています。日系企業というのは、海外進出する場合に大抵最初に商社が現地に入ります。そのあとにメーカーが入り、最後に流通業の百貨店などが入っていくパターンが中心です。自動車産業では、メーカーが現地に工場を立ち上げると駐在する会社員やその家族を中心に日本人の人口が非常に増えてきます。それを狙って百貨店や小売業が出店してくる、そういう流れに乗り紀伊國屋も海外への出店を広げて参りました。

次に、アジア市場での取り組みについてご紹介したいと思います。弊社がアジアの方に拡大しました 1980 年代後半から 90 年代は、ご記憶の方もいらっしゃると思いますが、バブル期でした。一時期、1 ドル 70 円台と非常に円高が進んだ時期があります。それはメーカーが海外で事業拡大された時期と重なります。グラフを見ていただければ一目瞭然ですが、この時期は右肩上がり海外に

おける邦人数が増えています。中でもアジアは著しいです。グラフを見ていただくと、80年代から現在になるまで3倍。日本人の数は増えています。私がバンコクにいた際も、ちょうどトヨタさんが新工場を立ち上げる時期に重なりました。自動車メーカーが工場を作ると、そのメーカーだけでなく関連する部品産業のメーカーも工場作ったりするので、たくさんの日本人がやってきます。結果として、トヨタが工場作ると日本人学校の教室が一個増える、そういう極端な増え方を当時はしておりました。

ちなみに今、アジアで一番日本人が多いのは上海ですが、中国経済がちょっと色々波乱含みという事で、今リスクヘッジとしてバンコクに工場を構える会社も多く、おそらく二番目に多いのがバンコクで、登録されているだけで6万人、届出のない人も含めるとおそらく7、8万は日本人が住んでいるのではないかと思います。この日本人がどんどん海外に増えていった時期は、ちょうどサブカルチャーを中心とした日系のコンテンツがどんどん輸出されていった時期でもあります。音楽では、X-Japanとかビジュアル系の走り、SMAPなどジャニーズ系が一番勢いがあつたのもこの時期ですね。あとはダンスミュージック。小室哲哉さんとかが一番調子良かったのもこの時期だったと思います。

こちらは音楽ソフト生産枚数ですが、一番のピークが大体1985年に二倍まで増えます。この時期は海外の小売についても日本のCDはコーナーを作って売っているような状況でした。

音楽と一緒にドラマが一番盛り上がったのもこの時代だったと思います。高校生の方はもうご存じないでしょうが『東京ラブストーリー』『101回目のプロポーズ』『ロングバケーション』などは、アジアでも非常に広く見られていました。発展途上の国では都会で生活する男女の生活を描いた、トレンドドラマというのは非常に洗練されたものに映ったようで、そこに登場する人物のファッションなどにも非常に感心が集まりました。現在のようにインターネットがたくさん普及している時代ではありませんでしたので、ドラマの情報やファッションの情報は基本的にみんな雑誌で集めていました。そこで芸能人であれば明星、テレビファン、テレビガイドなどのテレビ誌も現地の方がたくさん買ってくださいました。この時期、アジア各国で日本の雑誌は大量に消費されており、弊社でもお店に置いた端から売れていき、商売が非常に楽な状態でした。現地はまだ印刷技術も進んでいませんで、雑誌といえば一冊30~40円で売るようなものしか当時はありませんでした。そういった中で印刷もよく綺麗な写真が載っている日本の雑誌は非常に贅沢なもので、主に中間所得層以上のお客様に買っていておりました。こういったバブルの時代は、経済そのものが好調だったので作る側も沢山お金をかけておりましたし載せるコンテンツもお金のかかった物が大量に出回り、アジアの中で日本のコンテンツが急に普及が進んだのではないかと思います。

ちょっと話変わりますが、今、日本のこういったコンテンツはほとんど韓国勢に置き換わっています。アジアのCDショップを見ても、日本のCDはあんまり見かけません。良い物が出て来たというのがありますが、書籍などを見ると韓国は国の方でかなり助成金を出しています。ハングル文化を守る事に対して強い危機感をお持ちのようで、芸能関係は黙っていても広がっていく要素がありますが、書籍は国の方で助成をしているいろんな国で翻訳をしてもらうということをしています。

また意外なところで日本の書籍で売っていたのが、手芸書です。私自身、手芸はやらないので内

容はよく分かりませんが、つくる方からすると日本の手芸書というのはつくる物自体も手が込んでいますし、イラストが非常に緻密で分りやすいそうです。今、ネットで検索をしていただくと分かりますが、アジアに限らずヨーロッパやアメリカでもファンがついてます。ファンの交流サイトもあるくらい一部には非常に人気の高い商品となっています。こういったところは実際に海外で販売をしてみないと分らないことですが、意外な物まで商売になったりします。このように、最初の海外進出では、日本に関連する物だけを売って何とか商売を成り立たせていた状況です。

ですが、みなさまご存知の通りバブルというのは続きませんでした。バブルの崩壊で日系の小売業もかなり多くの会社が撤退しています。バブル期には他にも日系の書店がありましたが、その後アジア通貨危機ということがあり、それを期に大体の企業さんが撤退していつています。そこでどうして紀伊國屋が残れたかという、一つは、その流れに乗り遅れたのかも知れません。「どうしようかな」といつているうちに業績が戻ってきたということがあります。もう一つは、商品面で日本語の本だけでなく、違う商品にも手を出したというのが大きな違いでありました。

大きな転機になったのが、1997年にタイのバンコクにスクーピッド店というお店で洋書の専門店を作りました。今は近くのショッピングセンターに移転してなくなってしまいましたが。こちらの会社としても初めての取り組みで、タイの公用語はタイ語ですが、知識層はたいてい海外留学の経験があり洋書を読む習慣があります。またいうまでもなく観光都市なので、欧米やオーストラリア等から長期滞在や旅行者も大勢来ています。そういう層をターゲットに洋書を売り出したのが他と違うところでした。当時すでに洋書の専門店はありましたが、幸い巨大チェーン店はありませんでした。

当時あった書店さんで、変わった並べ方をする所がありました。洋書は横文字なので縦にすると読みづらいので、横に順番に積み重ねていくという普段あまり書店はやらない並べ方をしていました。当然横にすればタイトルは読みやすいですが、下から本を取れません。そういった書店さんは他にあったんですが、オーソドックスな売り方をする本屋が他にはありませんでした。そこで洋書の販売に乗り出しました。売り場としては250坪くらいでそんなに広くはありませんが、商品管理は日本のやり方を取り入れました。例えば、ドイツの本屋さんでは、一冊ずつ並べるということではなく、売りたい本やおススメの本を目につくように置いて、そこにポップがついているというやり方です。これは今もう主流になって来ているらしいですが、日本式というのは、そうではないではありません。一冊ずつでも、いろいろな商品を用意して、お客様がいらっしゃったらその中から一冊を選べるというお店を作るということを洋書でもやってみました。日本の会社が洋書を売ってやっていけるのかということもありましたけど、何とか現地のお客様からも支持を得て、これで洋書でもやっていけるぞという確信を持てたのが、タイのお店でした。

小さいお店で一箇所成功できたので、今度はシンガポールで大きいお店を出そうということで、次にシンガポールに比較的大きなお店を作りました。ここも最近移転してしまっただけでやや小さくなってしまったのですが、移転する前は1200坪で、私の今いる札幌本店よりやや小さいくらいの広さです。ただワンフロアなので、横にするとかなり大きいお店を出しました。このお店では洋書

だけでなく、従来売っていた日本語の本や、他にも中国語の本などを一緒に店で売った最初のお店です。そちらでも大変好評をいただき、最初に申し上げましたとおり、今ではシンガポールで一番有名な書店と言えば紀伊國屋といえるくらい成功をおさめております。

マーケティングの大御所にフィリップ・ゴトラー氏がいます。ご存知の方いると思うんですが、その方からこんな論評をいただいています。「紀伊國屋はこの国にとってはジャイアントキャンディーみたいなものだ。」このように非常に有名なエコノミストの方からも評価を頂けるくらいシンガポールでは安定した地位を確立する事ができました。

シンガポールの後はシドニーや、ドバイにお店を順次拡大していきますが、北海道出身の評論家に寺島実郎さんという方がいらっしゃいますが、その方が「ユニオンジャックの矢」ということをおっしゃっています。シンガポールはもともとイギリスの植民地でしたし、オーストラリアは今もイギリスと深い関係があります。ドバイももともとは大英帝国の保護領だったということで、これら各地をつないでいくと一直線になります。当然、英語文化圏、英語を受容するには容易な地域となっています。インドはまだ店出していませんが。紀伊國屋の経営者がそこまで先見の明があって出店したかはわかりませんが、結果としてイギリスと関係の深い地域に順番にお店を出していったとそういう形になっています。

洋書で成功したことにより市場で安定した地位を獲得できたので、少し余裕ができ、売り場も大きいものができたので、これまで扱ったことのない商品も置けるようになりました。ここにきてようやく現地の言語であります、例えばタイ語の書籍の取扱も開始しました。先ほど申し上げましたとおり、バブル期くらいまでは現地の印刷は非常に粗悪なものばかりで、書籍が出ていても非常に安い物でした。コミックなんかで一冊 120 円とか 130 円くらいの物ですね。正直、そういったものを百貨店の中に売り場を作って 10 冊 20 冊置いても商売になりません。ですが、バブル期を過ぎて 1990 年代くらいになって来ると、現地も経済成長が続き、印刷物も非常に良い物が出てきます。そうすると我々も売って商売になるような市場ができあがってくるのです。

写真をご覧くださいとおり、バンコクではタイ語の本が出まして、今はもう日本語の本よりもタイ語の本の方が売上げが多いと思います。マレーシアは公用語が英語なので、バンコクに比べるとマレーシア語の本の売れ行きの伸びは小さいですが、それでも徐々に売上げは拡大して来ています。またシドニーでは、韓国人の方が多く、数年前で大体 6 万人の韓国人の方がいたので、雑誌や書籍も韓国語のものを送ってみたりしていました。あとは、外国語の本で取り扱いが多いのはやはり中国語の本です。ご存知のとおり、東南アジアにはたくさんの中系の方がいらっしゃいます。シンガポール、マレーシア、バンコクもそうですし、商売をしていると必ず中系の方に当たります。そういった方に、今、中国語の本で一番品質がいいのは多分、台湾で出版されている本です。印刷技術も優れていますし、出版に対する理解も非常に深いです。そういった本を今度はシンガポールやマレーシアに輸出して、現地のお客さまに読んでいただくというようなこともしています。

以上、弊社の海外展開の経緯を順番にご紹介して参りました。日本は最初にご紹介いただきましたとおり、書籍の市場は決して良いとは言いがたいです。年々縮小して将来的には厳しくなっているのですが、東南アジアを中心に新興国は、まだまだ伸び盛りで、なかなか調子良く推移して来ています。面白い展開になって来ているのがアメリカ、北米でして、当然アメリカにはバンズアンドノベルズなどの伝統ある大手書店がありますが、最近、Amazon、電子書籍なども扱っていますが、そちらでかなり攻勢を受けて、業界2位だったボーダズが経営破綻したり、地場の小さな書店が沢山消えていったりでしています。そういったところで、うちも長らく厳しい状態が続いたのですが、先ほど少し冗談まじりで申し上げましたように、撤退し遅れて「どうしよう」といっている間に、周りがどんどんつぶれていき、逆に最近は調子が良くなってきました。売り場で本を選べるような書店が周りにほとんどなくなってしまい、あの大きなニューヨークですら周辺にうち以外にはまともな本屋がないという状態にまでなっています。

出版社も、Amazonは沢山売ってはくれるますが、あまりAmazonとばかり仲良くするのも嫌だということもあり、そういったところは商品をしっかりうちにも卸していただきます。それは厳しい中でも毎月の支払いを滞りなくきちんとしていた結果、信頼があるからということもありますが、そうしたところで思いがけず、最近非常に好調な売上げを上げて来しています。

最近日本でも電車に乗っても本を開いている方はほとんどいらずで、たいていスマートホンをいじっていますが、こうした北米の様子などを見ると「やっぱり紙がいいな」という人も少なからずいるのかなと思い、多少勇気づけられています。弊社自身も電子書籍をやっていますが、あくまで本職は「紙」であると、今でも思っております。書店としてもお客様と書籍の出会いの場をしっかりと用意していくのが天職であるというふうに肝に銘じて、これから札幌本店、お店の運営をしていきたいと思っています。講演は以上です。ご清聴ありがとうございました。

<質問>

質問者 1：ご講演ありがとうございました。スライドの中でフィリップ・ゴトラーさんが紀伊國屋さんのお店を高く評価されたということですが、それはどちらのお店のことですか？

石堂氏：シンガポールの本店の論評です。色々な言語の本があって、色々な国の人が集まれる場所ということ、あとは商品の品揃えとして、子どもの本からマンガから研究書まで置いてありますので、誰が行っても楽しめる本屋になっていますよといったところが一番の評価ポイントということでした。特に ASEAN のなかにある企業についての論評の一カ所として書かれたものです。

質問者 2：講演大変興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。冒頭でお話いただいた中で、海外で展開するときに、文化や言語が違うというハードルがあり、それを乗り越えて、地域と一緒にいくことが大事なんだということでしたが、海外進出をするときに、日本人が相当数住む地域に日本の本を売っていき、ある程度そこで成果が出て、次はその地域の方に売っていくという形になるということでしたが、その時に日本の文化、例えばポップカルチャー、マンガみたいなものを現地の言葉に変えて売るなど、文化や言語が違う事に対してどういうアプローチをしていくかということについてお聞きしたいです

石堂氏：出版もやっております。タイでは日本語の学習書を直接編集して販売しています。また、現地にとけ込む上で一番重要なポイントは、基本的に仕事は全部現地の方にやっていただきます。タイもシンガポールも従業員数はおよそ 200 名前後ですが、日本から行っているのは基本的に 2 人です。現地法人の社長 1 人と日本語の小説などの日本人向けのマーケティングの責任者が一人です。日本語の本に関しても、やり方を教えて現地の人にやってもらっています。そうすると地域の方とコミュニケーションをとりやすいですし、そこで雇用を創出できるということもあります。とけ込んでいく面では、なんでもかんでも日本人でやるわけではなく、現地の方をベースに仕事を進めていくというのが重要だと思っています。

<会場のようす>



4. 第2部 茶話会

講演後は、休憩を挟み、場所を移して意見交換を行いました。図書館の利用状況や、現在の課題について情報提供したあと、3人ずつのグループに分かれて意見交換をしました。

<情報提供>

内容は資料ページを参照。

(1) 図書館を利用する理由、利用しない理由を考えてみよう

茶話会は「3人ワークショップ」で2つの話題をもとに進めました。はじめに、みんながなぜ市民図書館を利用するのか、なぜ利用しないのかについて、客観的な立場で理由を考えてみました。各グループで出された理由は次のような内容でした。

(詳細の内容は資料ページを参照)

①利用する理由

- 本が好きだから
- 本を借りるため
- 雑誌や新聞を読むため
- リサイクルコーナーを利用するため
- 調べ物をするため
- 音楽を聞いたり映像を見たり、インターネットを利用するため
- 拡大鏡があったり、バリアフリーだから
- 予約が便利だから利用する
- 部屋を借りるため
- 催しへの参加やボランティア、サークルの活動のため
- 買物をするため
- 子どもと一緒に来るため
- 勉強をするため
- 休憩したり、のんびりしにくる

②利用しない理由

- 開館日、開館時間が限られているので
- 時間がなく、図書館に行ったり本を読んだりする時間がない
- 交通手段がない、交通が不便だから
- 本が充実していないから（新刊が遅い、蔵書数が少ないなど）
- 本は買って読むから
- 本を見つけられないから
- 本に興味がない
- 誰かがさわった本が汚く感じるから
- 図書館の利用方法や、図書館でどんなことができるかわからないから
- 敷居が高い、気軽に利用できないから
- 子どもだけでは行けないから
- 学校に図書館があり、市民図書館に行かなくてもいいから
- 高齢になって本を読まなくなっていくから
- コミュニケーションがとれないから
- 勉強スペースに限りがあるから
- インターネットで代用できるから
- いいイメージがないから
- その他

(2) もっと身近な図書館に！図書館と市民のキョリをちぢめるには？

次に、3人で考えた「図書館を利用する理由、利用しない理由」をもとに、図書館と市民との間にあるキョリ（物理的、精神的）について、どのようにしたら縮められるか、図書館に行きたくなるための工夫や、本を借りる以外の利用、来なくなった人に再び来てもらうための工夫などについて話し合いました。

3人で話し合ったアイデアの中から、他のグループの人に紹介するものを3つ選んで、提案シートに記入し、発表しました。

<提案シートの内容（グループごとに整理）>

グループ 番号	提案シートの内容
1	・市民と図書館職員とのコミュニケーションをもっと親密に！！（司書による講座） ・イベントによる集客。（図書館講座や図書館に興味のない人も来くなるようなイベントなども...） ・巡回バスの運用。（もしくは図書館バスを月に1回程度走らせる）
2	・本を借りる以外の利用法をPRする。 ・対象をしばった（学生向けとか、高齢者向けとか）イベントを通じて、様々な図書館の利用法をPRする。
3	・（体が不自由な人のための）配送システム。→来館できない人が利用できる。→配送料は有料。 ・楽器レンタル（楽譜も）。本は読まないけれど楽器には興味がある、〇〇という楽器を使って演奏したいという人のためのシステム。（北欧では一般的）
4	・館内奥の調べものコーナー以外に、入口貸出カウンターの辺りに「案内&調べものコーナー」をつくる。 ・twitterやFacebookなどのSNSを活用して新刊の入荷状況やおススメの本の情報を毎日こまめに発信していければ良いのでは？ ・スタッフさんの写真付紹介パネルを掲示しては？どのような方が働いているか、わかると親近感が湧くのでは？
5	・図書館イベントと連携した本を選び、参加者に借りてもらう。 ・年代別ランキングなど、わかりやすい特集も大切だが、マニアックな特集（専門家による選書、ツアーなど）も大切。 ・本を手に取りたくなるようなポップ作り、インターネットの検索とポップを連携させる。
6	・循環バスなどがあると来やすい！！ ・司書の方がどんなことができるのか発信する。 ・広報活動をもっと盛んにする（インターネット、特にフェイスブックやtwitterなどのSNS）。本の紹介や特徴の紹介、図書館の施設紹介。
7	・市内を循環バスで送迎（子ども、高齢者など）。やっぱり一番は足） ・図書館をよく知らない人が多いので、PRする。（字の大きな本があるなど）老人クラブにPR。 ・コミュニケーションの場として図書館を紹介する。（作品について、例えば感想を話し合うなど、コミュニケーションの場が小さくあると良い。） ・ネット予約の充実（館内のみでなく、できないかな）電話連絡など。

9	・他の年代の方と交流できるような機会をつくる。 ・長めのイベントをする。(図書館まつりより長期間) ・回覧板など、目に付くものにオススメ本の紹介をする。
10	・パン、お菓子など買える売店やATM(銀行)がほしい！ ・特集コーナーを増やしてほしい！(条例ができた手話や市内でのイベント・企画に関する本) ・学生さんや主婦、高齢者など多くの人が利用できる無料バス、図書館の前まで！ ・新しい本があると良いな！特に医療系などは新しい情報を。 ・子どもだけでなく、大人向けのイベントを！趣味や音楽の発表の場など。
11	・ホームページを見やすくする。(動作を軽くする、年齢別のオススメ本を紹介する→Web予約利用者に対して) ・学校図書館の有効利用。(全校に司書を配置し、子どもたちに利用方法を学ぶ機会をつくってほしい。貸出も可能に。巡回文庫の活用。校外学習など) ・パスファインダー(ブックリスト)を市民の目に付くところに！(市役所に「相談」「年金」「税金」。りんくるに「子育て」「医療」「介護」。学校に読み聞かせ「絵本」「児童書」など)
12	・中学生、高校生の参加を進める。高校生、高校に市民図書館をPRしてほしい。バスが図書館まで乗せてくれば良い。 ・市民図書館なので市民の催し物をPRする。例えば布の絵本1位を図書館でお祝いする！ ・今やっている特集、イベントなどを広報などで大々的にアピールする。野菜・花など石狩産にこだわって販売していることも知らない人が多いと思うので。
13	・作品の発表場所として利用してもらおうと生きがいづくりの一つとなる。 ・本を借りるだけでなく、コンサートやイベントの舞台として利用してもらおう。 ・若者の利用を増やすため、Wi-Fiを充実。 ・ボランティアによる来館できない方への宅配サービス。
14	・「まちあかり」など、図書館以外で出している情報紙で、市民図書館の本が紹介されていると、来館のきっかけになるので、他でも紹介される場があると良いと思う。 ・月1回の名画劇場を企画して、巡回バスを運行する。その時に借りた本を返却できるようにバスは月2回がベスト！ ・利用者と職員さんのキョリを縮める。子どもたちへの声かけ、楽しい雰囲気づくり(ボランティアさん含む)。館長さんのオススメ本を紹介する時間(週1回くらい、大人向け・子ども向け)。職員さんの名札をひらがなで親しみやすく。

＜提案シートの内容（内容ごとに整理）＞ （カッコはグループ番号）

●図書館の施設と機能の充実・魅力づくりと Web 利用の充実

- ・館内奥の調べものコーナー以外に、入口貸出カウンターの辺りに「案内&調べものコーナー」をつくる。 - (4)
- ・新しい本があると良いな！特に医療系などは新しい情報を。 - (10)
- ・パン、お菓子など買える売店や ATM（銀行）がほしい！ - (10)
- ・ネット予約の充実（館内のみでなく、できないかな）電話連絡など。 - (7)
- ・ホームページを見やすくする。（動作を軽くする、年齢別のオススメ本を紹介する→Web 予約利用者に対して） - (11)

●若い世代の利用が増えるような工夫をする

- ・若者の利用を増やすため、Wi-Fi を充実。 - (13)
- ・中学生、高校生の参加を進める。高校生、高校に市民図書館を PR してほしい。バスが図書館まで乗せてくれば良い。 - (12)
- ・学校図書館の有効利用。（全校に司書を配置し、子どもたちに利用方法を学ぶ機会をつくってほしい。貸出も可能に。巡回文庫の活用。校外学習など） - (11)

●利用者と職員（司書）とのコミュニケーションをふやす

- ・市民と図書館職員とのコミュニケーションをもっと親密に！！（司書による講座） - (1)
- ・スタッフさんの写真付紹介パネルを掲示しては？どのような方が働いているか、わかると親近感が湧くのでは？ - (4)
- ・司書の方がどんなことができるのか発信する。 - (6)
- ・利用者と職員さんのキョリを縮める。子どもたちへの声かけ、楽しい雰囲気づくり（ボランティアさん含む）。館長さんのオススメ本を紹介する時間（週 1 回くらい、大人向け・子ども向け）。職員さんの名札をひらがなで親しみやすく。 - (14)

●利用者同士のコミュニケーションの場をつくる

- ・コミュニケーションの場として図書館を紹介する。（作品について、例えば感想を話し合うなど、コミュニケーションの場が小さくあると良い。） - (7)
- ・他の年代の方と交流できるような機会をつくる。 - (9)

●選書、特集、ポップなどで、本を紹介する

- ・特集コーナーを増やしてほしい！（条例ができた手話や市内でのイベント・企画に関する本） - (10)
- ・図書館イベントと連携した本を選び、参加者に借りてもらう。 - (5)

- ・年代別ランキングなど、わかりやすい特集も大切だが、マニアックな特集（専門家による選書、ツアーなど）も大切。 - (5)
- ・本を手に取りたくなるようなポップ作り、インターネットの検索とポップを連携させる。 - (5)

●利用者の興味をひく様々なイベントの開催

- ・イベントによる集客。（図書館講座や図書館に興味のない人も来たくなるようなイベントなども…） - (1)
- ・対象をしばった（学生向けとか、高齢者向けとか）イベントを通じて、様々な図書館の利用法をPRする。 - (2)
- ・長めのイベントをする。（図書館まつりより長期間） - (9)
- ・子どもだけでなく、大人向けのイベントを！趣味や音楽の発表の場など。 - (10)
- ・月1回の名画劇場を企画して、巡回バスを運行する。その時に借りた本を返却できるようにバスは月2回がベスト！ - (14)

●図書館を多目的な利用・活動の場として活用する

- ・本を借りる以外の利用法をPRする。 - (2)
- ・楽器レンタル（楽譜も）。本は読まないけれど楽器には興味がある、〇〇という楽器を使って演奏したいという人のためのシステム。（北欧では一般的） - (3)
- ・市民図書館なので市民の催し物をPRする。例えば布の絵本1位を図書館でお祝いする！ - (12)
- ・作品の発表場所として利用してもらおうと生きがいづくりの一つとなる。 - (13)
- ・本を借りるだけでなく、コンサートやイベントの舞台として利用してもらおう。 - (13)

●図書館の機能、特長、イベント、入荷図書などのPRを工夫する

- ・twitterやFacebookなどのSNSを活用して新刊の入荷状況やおススメの本の情報を毎日こまめに発信していければ良いのでは？ - (4)
- ・広報活動をもっと盛んにする（インターネット、特にフェイスブックやtwitterなどのSNS）。本の紹介や特徴の紹介、図書館の施設紹介。 - (6)
- ・図書館をよく知らない人が多いので、PRする。（字の大きな本があるなど）老人クラブにPR。 - (7)
- ・今やっている特集、イベントなどを広報などで大々的にアピールする。野菜・花など石狩産にこだわって販売していることも知らない人が多いと思うので。 - (12)
- ・回覧板など、目に付くものにオススメ本の紹介をする。 - (9)

●図書館のことを知ってもらうために他の施設や団体との連携でPRをする

- ・パスファインダー（ブックリスト）を市民の目に付くところに！（市役所に「相談」「年金」「税金」。りんくるに「子育て」「医療」「介護」。学校に読み聞かせ「絵本」「児童書」など） - (11)
- ・「まちあかり」など、図書館以外で出している情報紙で、市民図書館の本が紹介されていると、来館のきっかけになるので、他でも紹介される場があると良いと思う。 - (14)

●巡回バスの運行で、利便性を向上させる

- ・巡回バスの運用（もしくは図書館バスを月に1回程度走らせる） - (1)
- ・循環バスなどがあると来やすい！！ - (6)
- ・市内を循環バスで送迎（子ども、高齢者など）。（やっぱり一番は足） - (7)
- ・学生さんや主婦、高齢者など多くの人利用できる無料バス、図書館の前まで！ - (10)

●図書館に来館できない方のためにサービスを拡充する

- ・（体が不自由な人のための）配送システム。→来館できない人が利用できる。→配送料は有料。 - (3)
- ・ボランティアによる来館できない方への宅配サービス。 - (13)

（３）図書館から感想とあいさつ（館長 東信也）

本日は本当にたくさんの方々にご参加いただきありがとうございます。冒頭、北條委員からご説明していただいたように、今日は図書館が15年経って、これからさらに色々な方に利用してもらうためにはどうしたらよいかを、たくさん使っている人、たくさんは使っていないという人にも意見をおききしたいと思い、図書館協議会委員と私達職員で何回か話し合いをして企画しました。



発表では、場所の話、PR、交流、イベント、資料の充実、ネット利用など、非常に貴重な意見をいただき、大変ありがたく思っております。出来るところ、出来ないところもあると思いますが、これから関係者の方々とよく協力をして実現に向けて頑張っていきたいと思えます。

今後この意見をもとに、アンケートなどでさらに多くの人に意見をお聞きして、この5年間で次の5年を図書館がどのように進んでいったらいいのかを、まとめていきたいと思えます。

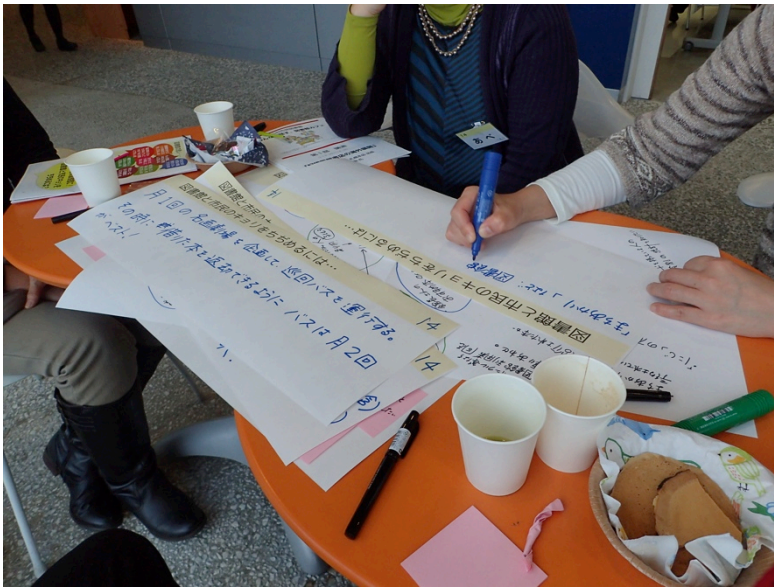
皆さんのご意見からは、図書館がこうあったらいいなと、本当に関心を持たれているんだなと思いました。非常に期待されていると感じました。これからも本を通じて多くの方々が交流できるような図書館にしていきたいと思っていますし、今後についてはこのように市民のみなさんと一緒に考えて方向性を作っていきたいと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、この会を開催にあたりまして協力していただいた関係者の方々に改めてお礼を申し上げたいと思えます。本当にありがとうございました。

<茶話会のようす>







提案シートをまとめる



提案シートの発表

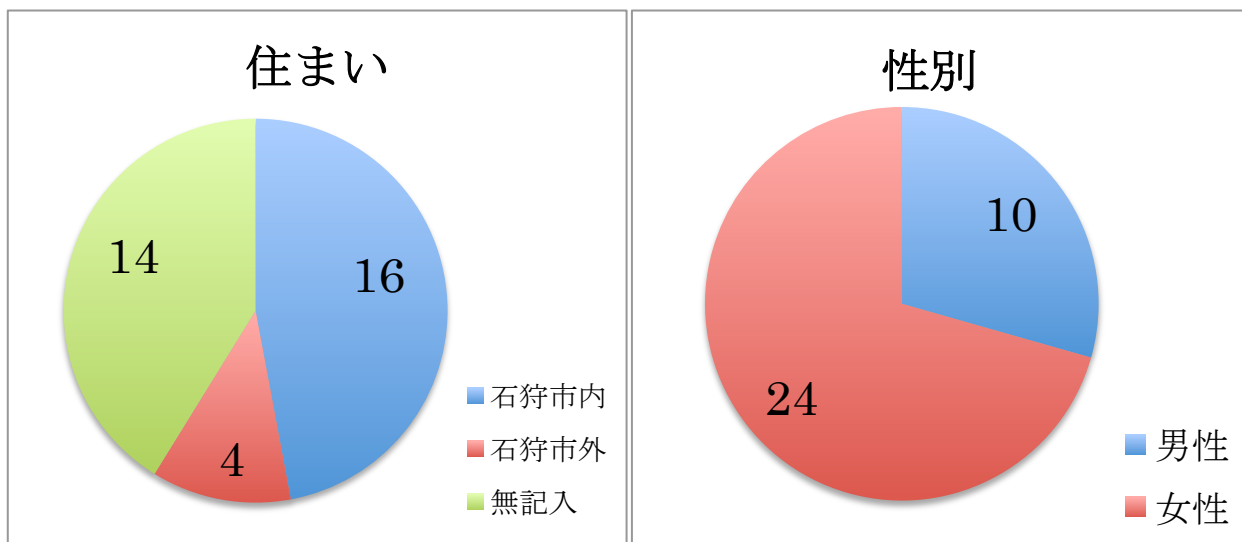
<各グループで作成した提案シート>

図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ① 市民と図書館職員との (司書による講座) コミュニケーションをもと 親密に!!	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 2 対象をしばた (学生向けとか 高齢者向けとか) イベントを通じて、様々な図書館の利用法を PRする。
図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ① イベントによる集客 (図書館講座や図書館に興味のない人も 来くなるようなイベントなども...)	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 配送システム →来館できず利用できた →配送料は有料
図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ① 巡回バスの運用 (もいは図書館バスを月に10程度走らせる)	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 楽器レンタル(楽譜も) →お茶会とか楽器を演奏する、00という楽器を使って演奏したいという人のためのシステム
図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 2 本を借りる以外の利用法を PRする。	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 4 館内奥の調べものコーナー以外に、 入口 貸出しカウンターの辺りに「案内 & 調べものコーナー」 をつくる。
図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 4 twitterやFacebookなどのSNSを活用して 新刊の入荷状況やおススメの本の情報を 毎日こまめに発信してはいいのでは?	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ⑤ 本を手に取りたいくなるようなポップ作り、 インターネットの検索とポップを連携さ せる。
図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 4 スタッフさんの写真付紹介パネルを 掲示しては? どのような方が働いているか わかると親近感がわくのでは。	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 6 循環バスなどが有ると来やすい!!
図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ⑦ 図書館 イベントと連携した本を 選び、参加者にかけてもらう	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 6 司書の方からどんな事が出来るかを発信。
図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ⑦ 広報活動をもっと盛んにする (インターネットやフェイスブックやツイッターなどのSNS) ・本の紹介や特長の紹介 ・図書館の方向性紹介	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… 6 市内を循環バスで送迎 (子供・高齢者など)
4 図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ⑦ 年代別ランキングなど、わかりやすい特集も大 切だが、ユニークな特集(専門家による選書ツアー など)も大切	図書館と市民のキヨリをちぢめるには… ⑦ 市内を循環バスで送迎 (子供・高齢者など)

5. アンケート

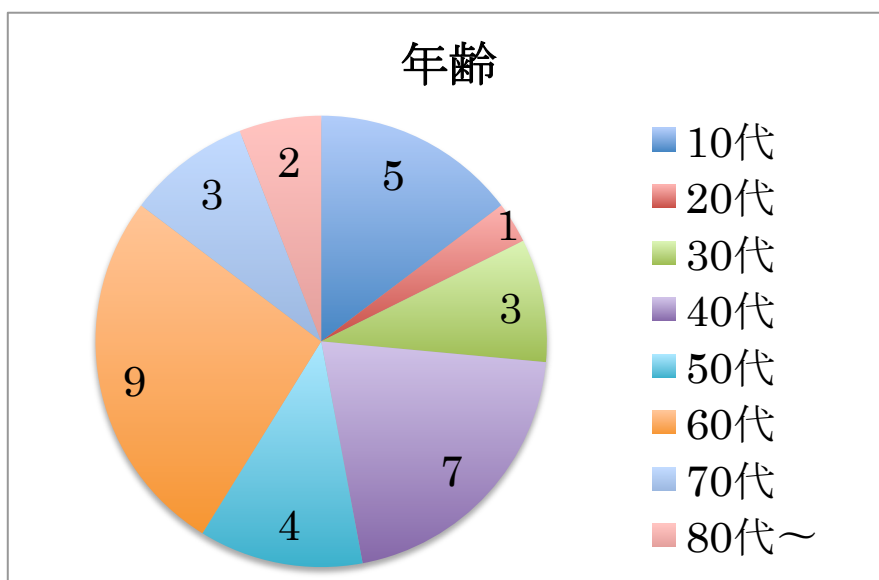
第二部参加者 41 人のうち、34 人からアンケートを回答いただきました（回収率 83%）。
集計と主な回答は以下のようになりました（自由記入の詳細は資料ページを参照）。

Q 1. あなたのことを教えてください



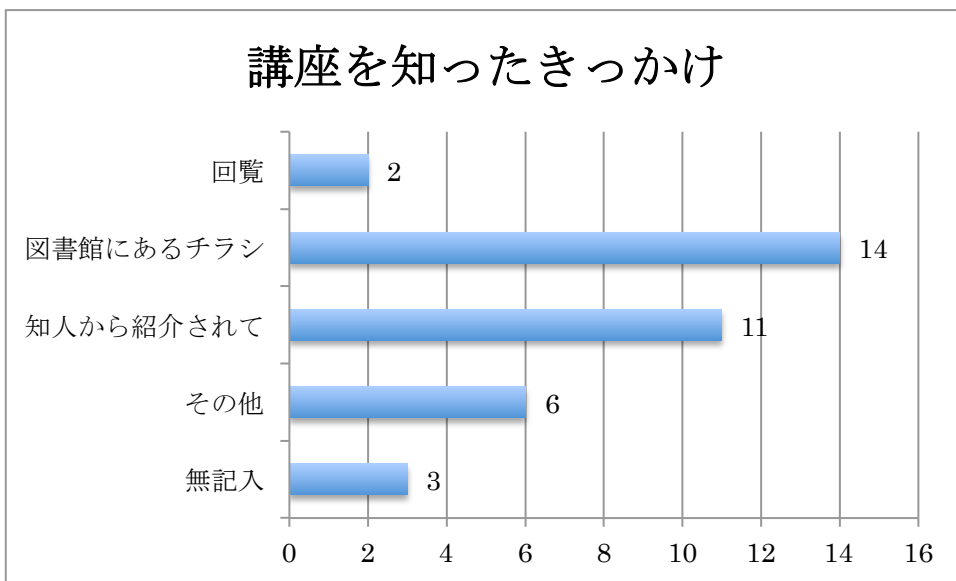
住まいを記入いただいたうち、8 割が市内、
2 割が市外でした。

男性が 3 割、女性が 7 割の参加でした。



60 代が最も多く、次に 40 代、高校生の 10 代、50 代と続き、幅広い年齢層が参加しました。

Q 2. 今回の講座は何で知りましたか



図書館にあるチラシを見ての参加、知人の紹介での参加が多くありました。

Q 3. このイベントに参加しようと思った理由をおしえてください (主な回答)

●図書館に対する期待、興味から

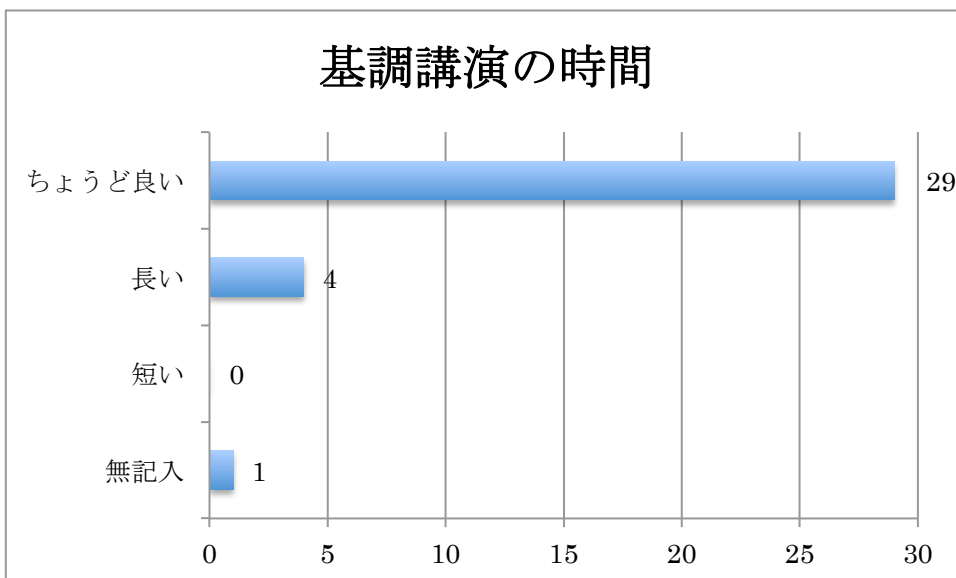
- ・図書館のことや図書館での活動に興味があった。
- ・図書館をもっと良くしたいと思った。
- ・様々な意見を聞いたり、発信したいと思った。

●講演やイベントに対する興味から

- ・図書館のイベントとして興味や関心があった。
- ・講演の内容や講師に興味があった。
- ・イベントの参加やイベント内容が楽しそうだったと思った。

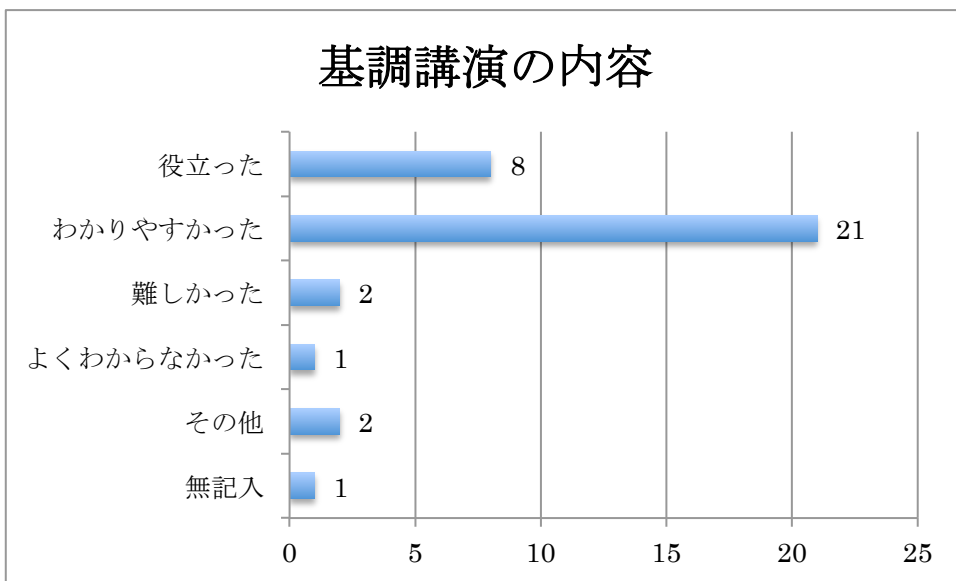
●紹介を受けて

Q 4. 貴重講演の時間はどうか



85%の方が、時間の長さはちょうどいいと回答しました。

Q 5. 貴重講演の内容はいかがでしたか

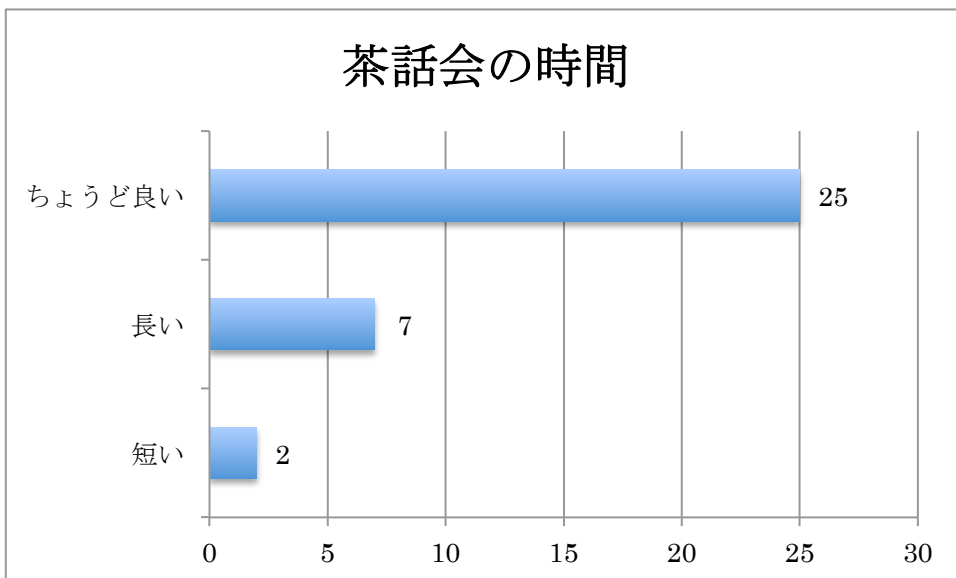


お話がわかりやすかった、役立ったという回答が多くありました。

Q 6. 基調講演の感想や印象に残ったことなどお書きください（主な回答）

- ・わかりやすい説明・音量で、興味深い講演だった。
- ・紀伊国屋書店の海外進出の話などを聞けて興味深かった。
- ・講師のプロフィールや紹介があると良かった。
- ・具体的な失敗談や工夫したことを聞きたかった。
- ・図書館に関連してのお話がほしかった。
- ・会場の雑音が気になった。

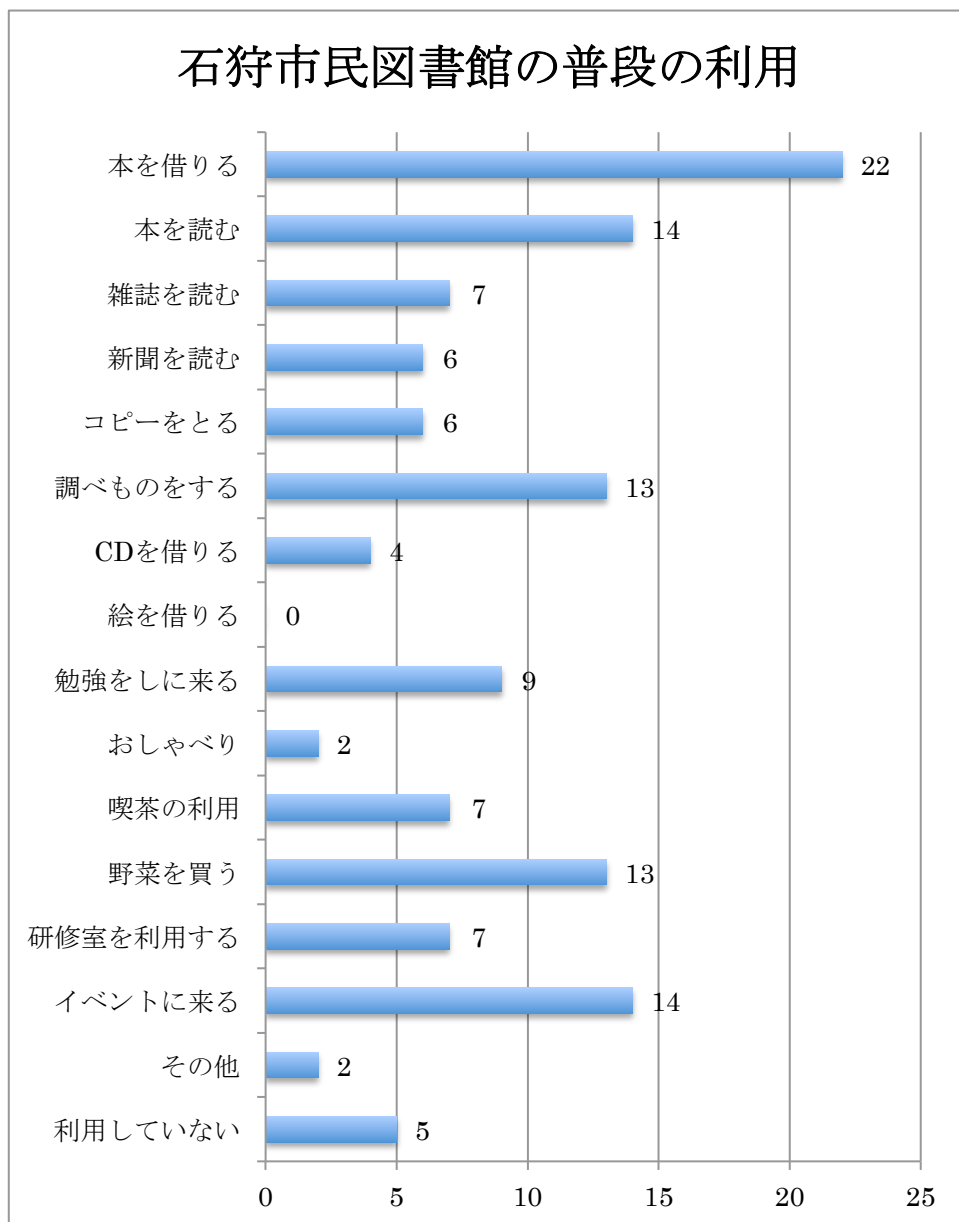
Q 7. 茶話会の時間はどうか



Q 8. 意見交換の感想についてお聞かせください（主な回答）

- ・盛り上がって、楽しかった。
- ・他世代の交流となり、興味深かった。
- ・みんなの熱意を感じられて良かった。
- ・進行の仕方も良かった。
- ・盛り上がったが、改善意見やアイデアを実現してほしい。

Q 9. 石狩市民図書館について普段はどのような利用をしていますか

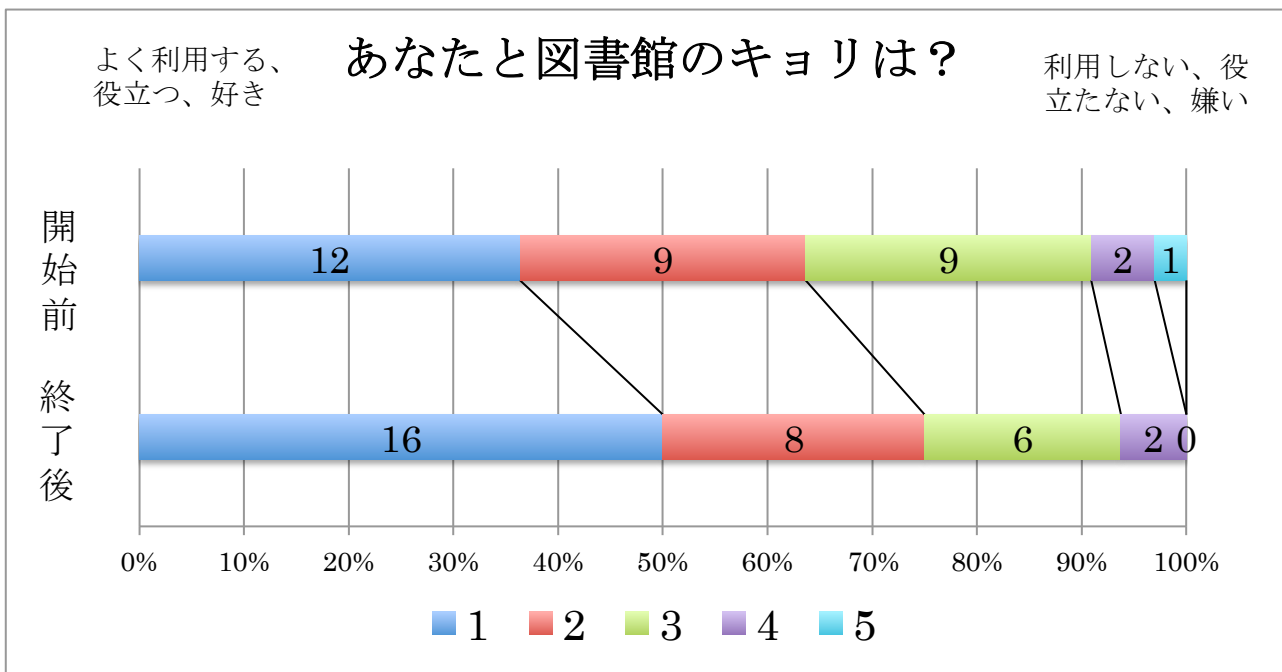


本を借りる、読む、調べ物をするなどの図書館機能の利用の一方で、イベントに来る、野菜を買う、喫茶や部屋を借りるなどの利用も多くありました。

Q10. 今後図書館に期待すること、してほしいことなどを自由にお書きください

- ・もっとイベントを開催してほしい。
- ・このイベントの結果を実現してほしい。
- ・写真を撮る時は声をかけてほしい
- ・スケジュールだけでなく内容も明示してほしい。（意見交換の進め方について）

Qあなたと図書館とのキヨリを教えてください



回答方法についての説明を丁寧に行わない中で回答いただいたため、正確に回答していない人もいる可能性がありますが、前後で1の回答が増えました。

6. 資料

(1) チラシ

この事業は公益財団法人北海道市町村振興協会（サマージャンボ宝くじの収益金）の助成を受けて実施しています

みんなで話す、 図書館カフェ



これからの石狩市の図書館に必要なことって、一体なんでしょうか？
それを、みんなで話し合しましょう！ 図書館を利用しない人も、本は書店で買うという方も、
図書館ヘビーユーザーの方も、ぜひお越しください。

【日時】 **11月28日（土）13:30～16:30**

【場所】 石狩市民図書館 エントランスホール

【定員】 **50名**（要申込・先着順：11/20締切）

※ 13時から希望者に図書館をご案内しますので、お申しください。

※ 参加に際し、交通手段をお持ちではない方はご相談ください。

第1部 講演

「紀伊國屋書店の海外展開」

●講師 石堂 聡 氏（紀伊國屋札幌本店 店長）

出版不況といわれ、日本の出版業界は厳しい状況にあります
が、米国、シンガポールなど、紀伊國屋書店の海外店舗は現
地の需要を取り込み、成長を続けています。日本の書店がな
ぜ海外で成功できたのか、その経緯をご紹介します。



第2部 茶話会

もっと身近な図書館に！ 「図書館と利用者のキヨリ」を縮めるには？

図書館をもっと魅力的な場所にするには？もっと気軽に使
える場所にするには？お茶を飲みながら、みんなでアイデ
アを出し合いましょう。

●進行 (株) 石塚計画デザイン事務所スタッフ

【申込・問合せ】 石狩市民図書館

Tel. 0133-72-2000 / Fax. 0133-73-9120



(2) 石狩市民図書館について（情報提供資料）

石狩市民図書館 みんなで話す、図書館カフェ



この事業は公益財団法人北海道市町村振興協会（サマージャンボ宝くじの収益金）の助成を受けて実施しています

第1部 講演

13:30～14:30

「紀伊国屋書店の海外展開」

紀伊国屋書店 札幌本店 店長
石堂 聡 氏

第2部 茶話会

14:40～16:30

「もっと身近な図書館に！ 図書館と市民のキョリを ちぢめるには？」

石狩市民図書館 について

石狩市民図書館の場所

- 本館・・・1カ所
- 分館・・・3カ所
 - ・花川南（コミュニティセンター内）
 - ・八幡（コミュニティセンター内）
 - ・浜益（コミュニティセンター内）
- 学校図書館の地域開放1カ所
 - ・あいかぜとしゃかん（厚田小学校内）



石狩市民図書館の歩み

昭和50年代～	市民から図書館建設を求める声が起きる
平成4年11月	市制記念事業として図書館計画がはじまる
5年8月	図書館建設計画がスタート
9年3月	石狩市図書館基本計画を策定
12年6月	オープン（初日は開館2時間で2,000人を超える利用）
12年12月	第1回バリアフリー・デザイン賞 大賞受賞
13年10月	日本図書館協会制定「建築賞」受賞
16年6月	一般社団法人公共建築協会「公共建築賞」受賞
17年10月	石狩市、厚田村、浜益村合併。厚田分館、浜益分館設置
20年8月	ほぼらと（石狩市市民活動情報センター）が運営する図書コーナーにて、図書館資料の貸出を始める
21年4月	若葉小学校（現在の双葉小学校）に石狩市初の学校司書を配置
23年3月	「学校図書館等整備方針」を策定
24年4月	東日本大震災被災地支援として、図書館職員6名（2班体制）が宮城県名取市の避難所で読み聞かせ、図書館再開を支援
24年12月	厚田小内に分館機能を含めた「あいかぜとしゃかん」オープン
25年10月	宮城県名取市・石川県輪島市の両図書館と友好図書館になる
26年3月	雑誌スポンサー制度開始（対象：個人、団体、企業）
27年4月	沖縄県恩納村文化情報センターと友好図書館になる

開館時間・休館日

開館時間

- ◆火・金 10:00～18:00
- ◆水・木 10:00～20:00
- ◆土・日・祝日 10:00～17:00

休館日

- ◆月曜日
- ◆祝日の翌日
- ◆月末図書整理日（年3回）
- ◆年末年始 など

石狩市民図書館の概要

- ◆蔵書冊数 281,945点
- ◆入館者数 236,177人（1日平均811人）
- ◆登録者数 21,617人
（石狩市民53%、札幌市民44%）
- ◆貸出点数 565,456点
（平成27年3月現在）

図書館の利用の比較

	人口 約(人)	蔵書数/人口 (冊)	登録数/人口 (自治体内)(%)	貸出数/人口 (冊)
石狩市	6万	4.42	38(20)	9.22
北広島市	6万	5.33	53(-)	8.58
恵庭市	6.9万	4.11	59(16.7)	9.08
千歳市	9.5万	2.91	80(14)	7.00
江別市	12万	3.47	57(-)	6.96
札幌市	193万	1.33	38(-)	3.56
石狩管内	235.7万	1.78	41.6(-)	4.29

H25年度データより 9

図書スペース

- ◆子どもコーナー
(授乳室、子ども専用トイレあり)
- ◆おはなし室
- ◆グループ室
- ◆しらべもの相談
- ◆資料情報コーナー
- ◆畳コーナー
- ◆AVブース
- ◆ビジネスブース
- ◆朗読サービス室
- ◆北東アジア姉妹都市コーナー

10

会議室等多目的スペース

- ◆エントランスホール
- ◆視聴覚ホール(防音室あり)
- ◆ホワイエ(視聴覚ホール前)
- ◆研修室1
- ◆研修室2(ボランティア作業室)
- ◆研修室3(和室)
- ◆喫茶スペース
- ◆エントランスアプローチ(屋外)
- ◆芝生広場(屋外)

11

石狩市民図書館の特長

- ◆だれでも利用できる(利用のバリアフリー)
- ◆貸出冊数に上限がない(貸出期間は2週間)
- ◆開架スペースが広い
- ◆自動貸出機(開館当初に導入)
- ◆飲み物は自由(食べ物はホールのみ)
- ◆貸出禁止の資料が少ない
- ◆読書スペースが多い(各所に椅子を配置)

12

図書館ビジョン 今後5年間に取り組む重点施策

1. 子どもの学びを支援する
2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する
3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する
4. サービスを支える基盤を整備する
5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源の構築する

13

ブックスタート



読み聞かせ

布の絵本ボラ



本の修理ボランティア

フロアワークボランティア

●図書館まつり

ボラ・団体の発表機会

にもなっている図書館まつりの運営と一緒に
毎年「ゼロ」から検討！ 今年は10/31-11/1

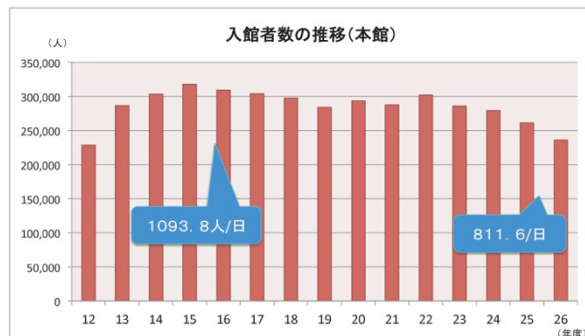
利用登録者数は、わずかずつ減少しています。



※登録していても、3年間利用がない場合は除算となります

17

一日の入館者数は減少傾向にあります。



18

図書館の思い・・・

図書館をまちづくりの拠点に活用してほしいな

もっと気軽に、みなさんに利用してほしいな

子どもたちの本に親しむ機会をたくさんつくりたいな

最近来なくなったのはどうしてかな？また利用してほしいな

生きがいづくりの場にしてほしいな

まだ利用していない人にも、利用してほしいな

来館できない人にももっと利用してほしいな

時代のニーズに合った図書館にしていきたいな

19

本日の茶話会のテーマは

もっと身近な図書館に！
図書館と市民のキョリを
ちぢめるには？

20

茶話会の進め方

14:50～ 70分	3人でグループをつくって話し合い
14:45～ 2分	自己紹介
14:50～ 13分	テーマ1「図書館を利用する・しない理由」(5分共有)
15:10～ 40分	テーマ2「図書館とのキョリをちぢめるには」
15:50～ 10分	提案シート(1～3枚)にまとめ
16:00～ 5分	休憩
16:05～ 20分	グループの提案シートの発表とまとめ
16:25～ 5分	図書館よりごあいさつ
16:30	終了

21

提案シートの記入例

3人で話した中から、1～3つのアイデアを紹介してください

- ・もっと気軽に立ち寄り場所になるためには
- ・もっと利用したいと思う場所になるためには
- ・本との出会いをうみだすためには
- ・いろいろな活動の場にしてもらうためには

など

図書館と市民のキョリをちぢめるアイデア

図書館の職員さんやボランティアさんの紹介とあわせて、おすすめ本を教えてもらい掲示する。

22

各グループでどんな提案を
考えたか紹介し合いましょう



23

(3) 図書館を利用する理由、利用しない理由を考えてみよう（詳細意見）

図書館カフェ 図書館に来る・来ない理由 内容ごとまとめ

①図書館を利用する理由、来る理由

●本が好きだから

- ・本が好き。本に関する活動が好き
- ・本が好きだから♡
- ・本が大好きなので。囲まれているだけで幸せになるので
- ・マンガが大好き！！
- ・本が好きでたくさん読みたい！
- ・読みたい本を全部は買えないので、まず図書館にあるかどうか確認
- ・興味のある本に目を通すため
- ・新しい本との出会いを求めて

●本を借りるため

- ・本を借りるため
- ・お金をかけずに本を読むため借りたい
- ・ただで本が読める（買うと家に本が増えて困る）
- ・何冊も借りれるので便利
- ・冊数制限で予約もとりやすいため

●雑誌や新聞を読むため

- ・雑誌を読むため
- ・新聞を読む
- ・新聞を読む時や本を読む時に利用する

●リサイクルコーナーを利用するため

- ・古本コーナーに本を持って来たり、もらって帰ったり
- ・リサイクル本棚が楽しい！！
- ・母はリサイクル本を中心に小説を探しにきます。返却期間が無いのでゆっくり読む気持ちになる

●調べ物をするため

- ・資料の収集
- ・資料を探して
- ・過去の雑誌をすぐ見て調べものに便利
- ・今は手に入らない本を探しに
- ・調べ物のため（資料）
- ・調べ物（インターネットよりも本の方が情報が確か）
- ・調べものの相談に親切に職員の方が応じてくれるので大変助かっています

●音楽を聞いたり映像を見たり、インターネットを利用するため

- ・ビデオ、DVD 等 AV 機器を利用したいから
- ・CD があるし、DVD も借りる。CD→浪曲もある
- ・インターネットをするため
- ・タブレット検索に利用

●拡大鏡があったり、バリアフリーだから

- ・拡大鏡がある
- ・バリアフリー

●予約が便利だから利用する

- ・スマホで予約できて便利になったので来ている

●部屋を借りるため

- ・部屋を借りるため（学習会等）

●催しへの参加やボランティア、サークルの活動のため

- ・読み聞かせの打合せやプロジェクト M や縄文の会で
- ・読み聞かせを聞きに来た
- ・図書館講座への参加
- ・展示会の見学
- ・小檜山博氏の小説を読む会の活動
- ・イベントに参加するため
- ・イベントに参加するため（読み聞かせや図書館まつりなど）
- ・同じ趣味の人との話し合い
- ・仲間に会えるから
- ・月二回、会に出席するために来る。その時に数冊借りて帰る
- ・図書館まつり運営委員会
- ・本の修理のボランティア
- ・バーコード打ちのボランティア
- ・ボランティア活動のため

●買物をするため

- ・地元の野菜の購入
- ・野菜を購入できる and 本を借りることができるので。本嫌いな母も連れてきます
- ・野菜が安くておいしいので買いに来ます
- ・野菜屋さんがいい！！
- ・図書館で野菜等の買物もできたり、ちょっとお腹に入るものもあり、休む所もあり…
- ・野菜を買うため
- ・石狩の特産品がある
- ・野菜とかパンが売られているのが良いです

●子どもと一緒に来るため

- ・子どもに同行
- ・子どもと休日に（イベントがあるとより足がむく）
- ・子どもには「読み聞かせの会」が楽しい
- ・親子で、趣味の本などを探しに来る
- ・子どもが小さい頃、子ども用トイレが中にあり、使いやすかった
- ・子どもにたくさん本を読ませたい
- ・子どもが生まれて絵本に目覚めた

●勉強をするため

- ・資格の勉強
- ・学生がテスト勉強のため
- ・勉強するため
- ・テスト勉強、雑誌のコピー

●休憩したり、のんびりしにくる

- ・お茶（お弁当）を食べにくる
- ・飲み物を飲んでもよい
- ・静かなスペースを求めて
- ・書店勤務経験がありますが、図書館は時間がゆっくり流れているのが良い。リラックスできるから
- ・気分てんかん。ただボーとしに
- ・気分転換になる。夏は涼しい（ぬるい…）
- ・すずしいから
- ・近いから
- ・利用者のマナーが良い
- ・学校で利用している
- ・休憩、おしゃべり
- ・お金がなく（給料日前？）とてもヒマな時

②図書館を利用しない理由、来ない理由

●開館日、開館時間が限られているので

- ・定休日が多いので
- ・閉館時間を知らない人もいるかも（20 時まで）
- ・仕事のため開館時間に来るのが大変

●時間がなく、図書館に行ったり本を読んだりする時間がない

- ・仕事が忙しくて本が読めないのだから来る回数が減った
- ・仕事をしており開館時間に間に合わない
- ・本を選ぶ時間がない。しかも本を読む時間がない
- ・時間がなくてこられなくなっている

●交通手段がない、交通が不便だから

- ・足がない。遠い
- ・図書館に来るのがめんどくさい（交通手段もないし）
- ・遠い（距離）
- ・交通手段がない
- ・花川地区のはしっこにある。中央にも…あるけど
- ・遠い（バスなど、交通の便が悪い）
- ・バス停から図書館までの道が、雪でグチャグチャで歩きたくない
- ・歩いてくるには少し遠いこと
- ・高齢者なのでバスが図書館まで来てくれば
- ・交通が不便
- ・車がないと不便かな？
- ・来るのに交通問題がある

●本が充実していないから（新刊、蔵書数など）

- ・新刊本が読めない（遅い）
- ・ほしい本がない
- ・新書の数が少ない
- ・大きい図書館でないと蔵書数が少ない
- ・流行を追うようなジャンルはない
- ・話題の本はなかなか借りることができない

●本は買って読むから

- ・新刊本が届くのがおそく、待ちきれない。早く読みたいので買って読む
- ・本は買う（おもしろかったら手元に置いておきたい。返すともう読めない）
- ・本には書き込みたい。線、メモなど。だから、自分で本を買ってしまう
- ・本は買うので借りない
- ・自分で本を買って読むため

- ・本は買って自分で持ちたい
- 本を見つけられないから
 - ・読みたい本が見つけれない
 - ・どんな本があるのかよくわからない
- 本に興味がない
 - ・本に興味がない
 - ・本に興味がわからない。スマホは楽しいし
 - ・本を読まないから
- 誰かがさわった本が汚く感じるから
 - ・誰が読んだか（さわったか）分らない本がイヤ。汚い感じ…？
- 図書館の利用方法や、図書館でどんなことができるかわからないから
 - ・図書館の建物も素敵なので、友人や知人に「図書館っていいよー」と言っても場所が（どうしても）わからないと言われる
 - ・情報が発信しきれてない（インターネットの活用が不十分）
 - ・図書館は何をするのか（できるのか）わからない
 - ・図書館について知らない事が多い（どんな本があるか等）
 - ・利用方法が分らないから
- 敷居が高い、気軽に利用できないから
 - ・来た事が無いので敷居が高い
 - ・気軽に利用しにくいから
 - ・気軽にこられない（マンガとか置いてなさそうだなあ…というイメージ）
 - ・静か過ぎて会話できない
- 子どもだけでは行けないから
 - ・子どもだけでは行かせられない。家が遠いから
 - ・小学生は親の許可も必要だから
- 学校に図書館があり、市民図書館に行かなくてもいいから
 - ・学生は学校の図書館を利用するから
 - ・学校に図書館があるから
 - ・学校の図書館もあるし、リクエストもとってくれるからわざわざ行かなくてもいいかなあ～
- 高齢になって本を読まなくなっていくから
 - ・高齢化による読書離れ
 - ・本を読むと目がしょぼしょぼしちゃう
 - ・数年前までは、利用回数が多かった父ですが、最近は活動範囲が狭くなりました。利用する機会があまり無くなりました
 - ・年齢があがってきていること
 - ・年齢が上がると本を読むと目が見つかる

- ・高齢になると本より他にしたい事がある

●コミュニケーションがとれないから

- ・自動貸出機でコミュニケーションとれない

●勉強スペースに限りがあるから

- ・勉強スペースに限りがある

●インターネットで代用できるから

- ・調べものはパソコンで。そもそも調べるという事をしない
- ・ネットで事足りるから
- ・スマホの普及で本が希望すれば読める

●いいイメージがないから

- ・堅苦しいイメージ
- ・いい思い出がない

●その他

- ・DVD が難し過ぎて見ようとは思わない
- ・電子機器の普及による情報収集の簡易化を
- ・何か別の使い方はないか？
- ・休日利用時の優先順位が低い
- ・天気が悪くて来られない
- ・本を持って帰るのがおっくう。図書館の中でみるくらいなので遠のく
- ・本屋で立ち読みして終わる

(4) アンケート用紙と自由記入の詳細

<アンケート用紙>

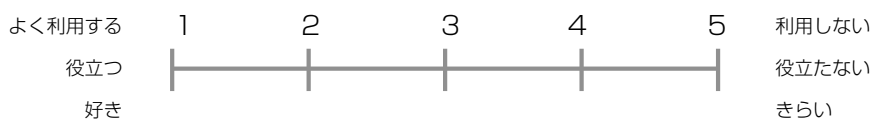
平成 27 年 11 月 28 日 石狩市民図書館 みんなで話す、図書館カフェ

石狩市民図書館 「みんなではなす、図書館カフェ」アンケート（案）

本日は参加いただきありがとうございます。今後の取組の参考のために、簡単なアンケートにご協力をお願いいたします。

当てはまる項目に○をお書きください。

【開始前：あなたと図書館との“キヨリ”はどれくらいだと感じますか？】



【参加のきっかけについて】

（Q1）あなたのことをおしえてください。

性 別 男性・女性

住まい ・その他（ ）

年 代 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代～

（Q2）今回の講座は何を見て知りましたか？

・回覧 ・図書館にあるチラシ ・知人から紹介されて
・その他（ ）

（Q3）このイベントに参加しようと思った理由をおしえてください

【本日の基調講演に関して】

（Q4）基調講演の時間はどうでしたか？

・ちょうど良い ・長い ・短い

（Q5）基調講演の内容はいかがでしたか？

・役立った ・わかりやすかった ・難しかった ・よくわからなかった
・その他（ ）

（Q6）基調講演の感想や印象に残ったことなどお書きください。

（感想）

（印象に残ったこと）

【茶話会について】

(Q7) 茶話会の時間はどうでしたか？

・ ちょうど良い ・ 長い ・ 短い

(Q8) 意見交換の感想についてお聞かせください

--

【石狩市民図書館について】

(Q9) 普段はどのような利用をしていますか

- ・本を借りる ・本を読む ・雑誌を読む ・新聞を読む
- ・コピーを取る ・調べ物をする ・CD を借りる ・絵を借りる
- ・勉強をする ・おしゃべりをする ・喫茶の利用 ・野菜を買う
- ・研修室を利用する ・まちあわせ
- ・イベントに来る（展示を見る／お話会／上映会／講座・講演／その他）
- ・その他（ ）
- ・利用していない

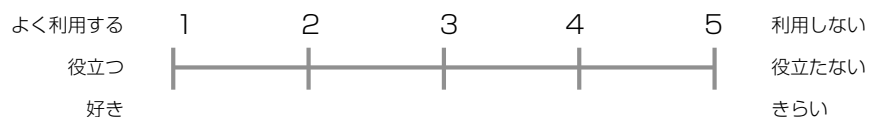
(Q10) 利用頻度はどれくらいですか

・月に1回以上 ・月に1回以下 ・年に数回程度 ・あまり利用していない

(Q11) 今後図書館に期待すること、してほしいことなどを自由にお書きください

--

【終了時：あなたと図書館との“キヨリ”はどれくらいだと感じますか？】



ご協力ありがとうございました。

<アンケート（自由記入の詳細）>

Q3.【参加理由】（記述 25 名（34 名中））

●図書館に対する期待、興味

（図書館のことや図書館での活動に興味があった。）

- ・図書館ではどのような活動をしているのか知りたかった。
- ・図書館のことを色々知りたいと思った。
- ・本が好きで、図書館に興味があるから。
- ・図書館の行事として中身が豊かと思ったから。

（図書館をもっと良くしたいと思った。）

- ・とても良い図書館だと思うので、もっと良くなってほしいと思いました。
- ・図書館をもっと良くしたいから。
- ・図書館の進化のために、自分が使い易くしてもらうために。
- ・石狩市民図書館が好きだから。市民みなさんに知ってもらって活用してほしいから。
- （様々な意見を聞いたり、発信したいと思った。）
- ・みなさんが図書館について、どのように思っているのか興味があって、参加しました。
- ・利用しない代表として。
- ・図書館司書を目指しており、様々な経験をしたいと思ったからです。

●講演やイベントに対する興味

（図書館のイベントとして興味や関心があった。）

- ・図書館ツアーに興味があったので。
- ・図書館の行事として中身が豊かと思ったから。
- ・図書館のイベントは当たり外れがないから。

（講演の内容や講師に興味があった。）

- ・紀伊国屋書店の社長の講話を聞きたかったから。
- ・書店の海外展開について、どのようなお話があるのか聞いてみたいと思ったので。
- ・講演がおもしろそうと思い。
- ・講演を聞いてみたかった。
- ・紀伊国屋さんのお話が聞ける。茶話会でお茶が飲める！（笑）
- ・以前、紀伊国屋書店に 10 年勤務していたことや、札大・北大図書館にも勤務していたので、書店・図書館はとても好きなので良い機会と思いましたので。

（イベントの参加やイベント内容が楽しそうだったと思った。）

- ・興味があり参加しました。私はこういうイベント関係は大好きです。
- ・良い企画だったから。
- ・初めてのことなので、どんな内容なのか聞きたかった。

●紹介を受けて

- ・職員の方からの紹介。
- ・夫が申し込みしていた。
- ・高校の先生に勧められて。

Q 6【基調講演について】感想 （記述 17 名（34 名中）

●わかりやすい説明・音量で、興味深い講演だった。

- ・生の声は興味深く聞くことができました。
- ・興味深かった。
- ・楽しくお話が進んだ。
- ・スライドがあり、ただ説明を聞くよりもわかりやすかった。
- ・聞きやすい音量でわかりやすかったです。
- ・売り場の写真を見せて頂きながらのご講演がわかりやすく伝わったと思いました。

●紀伊国屋書店の海外進出の話などを聞いて興味深かった。

- ・意外や意外、売り上げが好調なのには驚きました。
- ・大変わかりやすかったです。ネット時代の本屋さんは大変かと思っていましたが、堅調なようで安心しました。今後のこと（経営戦略？）も、もっと聞きたかったです。
- ・紀伊国屋書店が海外へ進出していることを知らなかったの、知ることができて良かった。
- ・紀伊国屋が今も海外にあるのは、実は撤退し損ねたからだと知ったのには驚いた。店の歴史や商法をよく理解できる、わかりやすい講演だった。
- ・時代によってつぶれるよりも、ブレない気持ちがあれば長く続けられる。
- ・日本人がどんどん世界に進出していることを実感しました。素晴らしいことだと思います。
- ・洋書、日本語、中国語など扱いが素晴らしいと思いました。
- ・初めは緊張されていた様ですが、後手は少し。

●もっと改善した方が良いと思う点など。

- ・講師の方の簡単なプロフィール（今までどこで勤務した経験があるとか）の紹介があると良かった。講演中の雑音が、会場右後ろから低い男声の話し声が続いて、ちょっと耳障り！
- ・もっと具体的な失敗談や工夫したことを話して欲しかった。
- ・内容が薄すぎた。

□印象に残ったこと （記述 13 名（34 名中）

●紀伊国屋書店の海外進出に関すること

- ・紀伊国屋さんは運が良い！
- ・海外の生き残りが引き際のタイミングが逃したこと。

- ・紀伊国屋がいろいろな国に進出していたこと。
- ・1997年にタイのバンコクで初めて洋書専門
- ・外国に26店舗あるとはすごい！！
- ・日本では書籍販売数が減っているが、新興国では伸びている
- ・その場所にあった「ニーズ」というのがとても重要なのがわかりました。
- ・日本の文化を海外の人々に伝える役割をも担っていらっしゃるのかなと思ひまして、今後のご活躍をお祈り申し上げます。

●図書館に関連してのお話が欲しかった。

- ・私たちは何をすれば良いのかがわからなかった。

●その他

- ・トレンディドラマが懐かしかった。
- ・あの頃のドラマは何につけても豪華だったな。スポーツの特に高校野球の名勝負集だったら思わず飛びついてしまうかな。私のオススメは熱闘甲子園のテーマ曲を集めたCDとDVDです。いくつになっても全く色あせぬ物があります。
- ・3人という人数は話し合いにちょうど良かった。
- ・ユニオンジャックの矢の話。ナショナルチェーンの強さを再確認できました。各店の特徴。※せっかく店長さんがいらしたら紀伊国屋に関するパンフ等（カード申込書配布等）欲しかった。

Q8 【茶話会について】 （記述28名（34名中））

●盛り上がり、楽しかった

- ・初めてでしたが、楽しくできました。
- ・面白い意見があり、面白かった。
- ・話せば話すほど色んな意見が出てくる楽しい話し合いだった。
- ・みんな、良い意見だった。
- ・楽しかったです。
- ・すごく楽しかったです。素晴らしい意見がたくさん出てました。
- ・親しくお話しできて、参考になることが多かった。
- ・色々な意見があり、参考になりました。
- ・気付かなかった意見を聞いて良かった。
- ・様々な意見があって面白かったです。色々と参考になりました。

●他世代の交流となり、興味深かった

- ・いろいろな世代の方がいて、楽しい時間でした。
- ・異年齢の方々と話し合えて楽しかったです。
- ・班に高校生と40代の方がおり、それぞれの立場での意見交換になり楽しかった。
- ・色々な世代の方と話すことができて、新鮮でした。

- ・幅広い年代の人から、たくさんの意見が聞けて勉強になりました。
- ・年代が全然違っていても、同じ意見があったり、自分では思いつかない意見がいっぱい出て面白かったです。
- ・それぞれの角度からの意見が盛りだくさんで、会話が弾みました。
- ・知らない同士だったが、楽しく意見交換（おしゃべり？）ができて良かった。予想外に楽しかった。

●みんなの熱意を感じられて良かった

- ・みなさん真剣で本が好きなんだなと。ほとんど利用していなかった私が参加したのは、ちょっと場違いだったかも。
- ・図書館に対するみなさんの熱意を強く感じました。
- ・大変楽しかったです。皆、石狩市民図書館を愛しているんだなぁと実感しました。熱い思いが伝わってきました。

●進行の仕方も良かった

- ・自由に話し合え、荒木さんの進め方が良かった。
- ・様々な意見を聞いて参考になりました。段取り（進行の仕方など）も参考になりました。
- ・他のグループのいろいろな意見が聞けてよかった。

●盛り上がったが、改善した方が良いところや出た意見を実現してほしい

- ・いろいろアイデア出たが、一つでも実現できればと思う。
- ・かなり盛り上がったが、1グループ3人は少ないように思う。他のグループでどんな話題が出ているか気になった。
- ・思わず時間が短過ぎて、もっと長く話したかった。
- ・作業に時間がかかり、親睦を深める時間が取れなかったのは残念。はっきり言って茶話会ではないです、これは。